

くすのき



樟蔭学園報 Vol.160

大阪樟蔭女子大学/大学院・大阪樟蔭女子大学短期大学部・樟蔭高等学校・樟蔭中学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園



私たちの歴史
SHOIN点描



施設の充実と近代化

昭和40年代から50年代にかけては、校舎の近代化とともに、施設・設備の充実が図られました。昭和46(1971)年には樟徳館の北隣、長瀬川沿いに鉄筋5階建ての樟蔭寮を竣工。これまで校地内外に点在していた北寮、西寮、東寮、壬寮、乾寮の5つの寮が一つになりました。世の中にはカー、クーラー、カラーテレビの3Cが到来し、生活様式も欧米型に変化していった時代。定員208名の樟蔭寮には、2段式ベッドと収納家具を備えた寮室のほか、ピアノ室やミン・アイロン室などの充実した設備を整えました。また、昭和45(1970)年に大阪で開催された万国博覧会を契機に、個人による国内旅行が定着。創刊されたばかりの『an・an』や『non-no』を片手に一人旅や少人数で旅行する若い女性が増え、「アンノン族」と呼ばれました。

1971 樟蔭寮の完成

第1回「田辺聖子文学館ジュニア文学賞」表彰式 ……10

記念講演 ● [小説を書く時間] 林真理子 ……3

樟蔭のつどい ^{7月開催} in 岡山 ……18

新任者の挨拶・異動・退職情報 ……1

SHOIN LABO ● [健康調理に関する研究] 安藤真美 ……5

こもれびの窓 ● トリンプ・インターナショナル・ジャパン 中澤麻利子 ……7

CLUB NAVI ● 高校スキー部 ……9

はぐくむ心 ● 中学校 副校長 永井利和 ……9

INFORMATION ● 参加イベントのお知らせ ……13

we are Now ● 各校行事など ……15

SHOIN点描 ● 1971年樟蔭寮の完成 ……19

はばたけ、知性。



中学校・高等学校校長 就任のご挨拶

女性としての品性の香りを

校長 篠原 芳雄(しのはら よしお)



河内小阪の駅を出ますと、菜の花が迎えてくれました。新しい土地と環境の中で一歩踏み出すのだと、感慨を新たにしました。私は、大阪府立市岡高校をこの3月に終えて、新着任しました。皆様よろしくお願ひいたします。

樟蔭学園は創立90有余年を迎える女子教育の歴史と伝統を持つ学校です。その理念は、高い知性と豊かな情操を兼ね備えた心優しい女性の育成です。私は女子のみの学校に勤めたことはありませんが、女性は結婚・出産・育児を視野に入れた教育が必要と思っています。女性としての品性の香りがする大人になってもらいたいと思っています。

私立学校の特徴は、価値観を共有する保護者・生徒が集まり、共通の目標で努力することだと思います。そこにいる教職員は、同じ学校に永くいる先生方が多くおられます。それゆえに、一人一人の役割、学校愛・生徒愛の強さを持っています。皆さんと一緒に学校づくりに参画できることを楽しみにしています。保護者が安心してお嬢さんを預けられる学校、生徒にとって学校に通うことが楽しく、誇りが持てる学校にしていきます。保護者の皆様のご理解とご支援を、引き続きよろしくお願ひいたします。

新任教職員紹介

学芸 国文 教授 小池 一夫(こいけ かずお)



漫画と文字は共生しています。セリフも名前も文字ですし、主人公の特徴を文字で読むと、イメージを頭の中に描きます。キャラクターと文芸が一緒になった、まったく新しい世界が始まります。

学芸 国文 教授 森西 真弓(もりにし まゆみ)



文学作品や舞台芸術は、私たちの人生を豊かにしてくれます。その魅力や奥深さを若い世代に伝えていきます。

学芸 英米文 教授 安藤 公仁(あんどう きみひと)



英語が「使える」楽しさや英米文学の面白さを、海外での生活体験も紹介しながら学生に伝えたいと思います。

学芸 被服 教授 日比野 英子(ひびの えいこ)



豊かな伝統ある学園に着任させていただきました。幸甚です。化粧品心理学研究室をよろしくお願ひいたします。

学芸 ライフプランニング 准教授 越智 砂織(おち さおり)



学生の皆さんとともに魅力的な女性に成長していきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

学芸 食物栄養 講師 井尻 吉信(いじり よしのぶ)



「日々訓練・日々挑戦・日々前進」をモットーに頑張っております。よろしくお願ひいたします。

児童 児童 教授 菅 正隆(かん まさたか)



培ってきた経験(学校、教育委員会、文部科学省)を生かし、日本一の英語教育を目指したいと考えています。

児童 児童 教授 辻村 隆史(つじむら たかし)



社会科を担当します。皆さんと共に向上していく気持ち、姿勢を持って、やっていきたいと思っています。

児童 児童 教授 山本 光男(やまもと みつお)



学生さんには、子どもを愛し、子どもから好かれる教員を目指してほしいと思います。共に頑張りましょう。

心理 臨床心理 准教授 根本 真弓(ねもと まゆみ)



Clientさんとの関係を生きることのできる臨床心理士を目指して、共に学んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

短大 キャリアデザイン 講師 児島 尚子(こじま なおこ)



美しい日本語が話せ、洗練された立居振舞いができる、そんな女性に成長なさるよう、お手伝いしてまいります。よろしくお願ひいたします。

短大 キャリアデザイン 講師 竹田 博信(たけだ ひろのぶ)



この2、3年景気が不安定で、不安な方も多いことでしょう。共に学んで不安を解消できればと思っています。

学芸 食物栄養 教務助手 岩田 光代(いわた みつよ)



一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

学芸 被服 教務助手 成川 侑里(なりかわ ゆり)



今年度より、教務助手として採用されることになりました。今まで以上に頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

高校 数学 常勤講師 宮本 良夫(みやもと よしお)



35年間の府立高校での経験を教科指導等で生かしていく。また進路に明確な意思を持つ生徒を育てていく。

高校 英語 常勤講師 山崎 長生(やまさき なかお)



伝統ある樟蔭学園で教壇に立てることを嬉しく思っています。一生懸命教えたいと思いますのでどうぞよろしく。

高校 国語 常勤講師 吉岡 正(よしかお ただし)



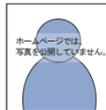
ご縁があって樟蔭学園でお世話になることになりました。相手にとってよき存在になれるよう頑張ります。

高校 理科 常勤講師 小嶋 祥吾(こじま しょうご)



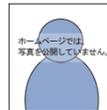
樟蔭と一緒に楽しい時間を過ごしたいと思っています。また気軽に声をかけてください。

中学 国語 常勤講師 寺田 和代(てらだ かずよ)



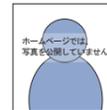
みなさんの成長を見守りつつ、自分も成長していきたいと思っています。全力でまいりますので、よろしくお願ひいたします。

法人 総務課 総務部長 横田 修(よこた おさむ)



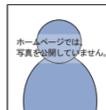
伝統ある樟蔭学園に勤務する事となり、学園の発展の為に精いっぱい努める所存です。よろしくお願ひいたします。

法人 企画広報室 係員 菅 愛美(かん まなみ)



伝統ある樟蔭で働くことができ、光栄です。皆さんの足を引っ張らず、お役に立てるよう頑張ります。

小阪 庶務課 係員 丸山 加織(まるやま かおり)



一日も早く樟蔭学園のお役に立てるよう精一杯頑張ります。よろしくお願ひいたします。

小阪 学術振興課 係員 岡田 光弘(おかだ みつひろ)



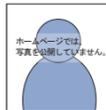
歴史と伝統ある樟蔭学園で、皆様のお力添えを賜りながら、邁進していく所存でございます。よろしくお願ひいたします。(2008.10.1.付)

小阪 学術振興課 係員 加藤 妙子(かとう たえこ)



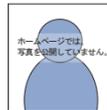
通い慣れた樟蔭学園で働けることを嬉しく思います。「いつでも前向きに」をモットーに一生懸命頑張ります。よろしくお願ひいたします。(2008.10.1.付)

関屋 学術振興課 係員 谷内 仁美(やち ひとみ)



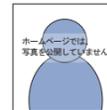
学びの姿勢を持ち続け、一步一步前に進んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

小阪 修学支援課 係員 松蔭 淳子(まつしま じゆんこ)



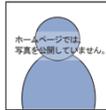
一日も早く、先輩方のように楽しみながら学園の即戦力になれるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。(2008.10.1.付)

小阪 修学支援課 係員 飼鳥 愛弓(かいとり あゆみ)



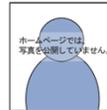
生徒の方達に快適な学生生活を送っていただけるよう、精一杯努めてまいります。よろしくお願ひいたします。(2009.3.1.付)

小阪 修学支援課 係員 安井 知香(やすい ちか)



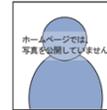
お世話になった樟蔭学園で勤務することとなり嬉しく思います。一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

関屋 修学支援課 係員 小南 達哉(こみなみ たつや)



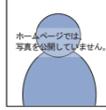
元気があれば何でもできる。一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

小阪 英米文学科研究室 係員 吉田 昌美(よしだ まさみ)



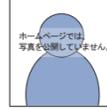
一日も早く仕事に慣れ、お世話になった学園に貢献できるよう、精一杯頑張ります。よろしくお願ひいたします。

関屋 児童学部研究室 係員 吉本 聡子(よしもと さとこ)



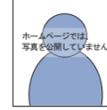
笑顔を決め、何事にも真面目に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

小阪 入学課 係員 村中 孝次(むらなか こうじ)



伝統ある樟蔭学園の今後の発展に貢献できるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。(2009.1.1.付)

関屋 入学課 係員 櫻井 里名(さくらい りな)



これからも精一杯仕事に励みたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。(2008.7.1.付)

人事異動

<ul style="list-style-type: none"> ●顧問 辰馬慎吾 ●評議員 伊藤田公美 ●役職 中学・高校・校長 森 眞太郎 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学・短期大学部/職員 大田聖子(2009.1.31.付) 今入美穂 若井希水子 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学・短期大学部/職員 入学課(小阪) 服部和美 入学課(関屋) 杉中照代
<ul style="list-style-type: none"> ●退職(2009.3.31付) 内田 豊(2009.2.1.付) 上野 轟 小田明美 湯浅慎一 熊代千鶴恵 中井 歩 木村多佳子 定延(小田)久美子 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学・短期大学部/教員 川端多津子 平尾徹美 藤崎廣次郎 森山義礼 吉村浩二 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学・短期大学部/職員 学生支援課 統括課長 大西孝志 庶務課 課長 辰巳早苗 学術振興課 課長代理 吉川 淳 入学課 主任 杉中照代
<ul style="list-style-type: none"> ●お悔やみ 謹んでお悔やみ申し上げます ●●●●●さん(大学・英米文学科教授) 2月1日 享年55歳 昭和62年4月、樟蔭女子短期大学講師として赴任され、平成13年に大阪樟蔭女子大学助教授、19年同教授になられ、その間、短大英語コース主任、大学の図書館委員、入試委員等を歴任され、約22年間本学園に対してご尽力頂きました。突然の、先生のお若すぎる死を悼み、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。 ●●●●●さん(大学・児童学科講師 ●●●●●氏のご尊父) 2月11日 享年86歳 ●●●●●さん(高校・助手 ●●●●●氏のご尊父) 3月24日 享年90歳 ●●●●●さん(大学・国文学科教授 ●●●●●氏のご尊父) 3月29日 享年92歳 ●●●●●さん(大学・児童学科准教授 ●●●●●氏のご尊父) 4月21日 享年86歳 ●●●●●さん(中学・副校長 ●●●●●氏のご母堂) 4月27日 享年83歳 	<ul style="list-style-type: none"> ●理事 篠原芳雄 ●評議員 篠原芳雄 ●役職 中学・高校・校長 川端多津子 大学/心理学部長 岡嶋幸子 大学/児童学部部長 仲谷兼人 ●大学・短期大学部/職員 川野伊津子(2008.12.31.付) 	<ul style="list-style-type: none"> ●異動 ●高校/教員 川浪隆之 古賀将友 三藤亮介 吉住 弘 ●中学/教員 内橋歳夫 東野恵美子 廣畑規公美 船田智史 ●法人本部/職員 総務課 日下早基子 ●大学・短期大学部/職員 学生支援課 課長代理 森本康平 修学支援課 課長代理 辰巳早苗 学術振興課 課長代理 吉川 淳 入学課 主任 杉中照代
<ul style="list-style-type: none"> ●採用 (上記の新任教職員紹介掲載外) 	<ul style="list-style-type: none"> ●任用 ※除再任 	<ul style="list-style-type: none"> ●任用 ※除再任

柿本善也氏が旭日大綬章を受章されました!

本学園の監事で前奈良県知事の柿本善也氏が、平成21年度の春の叙勲において旭日大綬章を受章されました。この旭日大綬章は、国家又は公共に対し功労があり特に顕著な功績を挙げた方に贈られる勲章で、奈良県知事を15年以上に亘り務められた柿本氏の功績が称えられたものです。栄えある受章、誠にありがとうございます。



林真理子

1954年、山梨県にある本屋の娘として生まれる。日本大学芸術学部を卒業後、アルバイト生活を経てコピーライターとして活躍。初エッセイ集『ルンルンを買ってうちに帰ろう』のヒットをきっかけに、作家への道歩み始める。1984年、小説『星影のステラ』が直木賞候補に選出されたことを機に執筆業に専念。1986年には小説『最終便』に「合えば」と「京都まで」の2作品により第94回直木賞を受賞。その後も柴田錬三郎賞や吉川英治文学賞など、数々の著名な賞を受賞。現在では直木賞や吉川英治文学賞などの選考委員も務める。

苦労や挫折はもちろん、日常の出来事の二つが作品のエピソードに。すんなり作家になっていたら、すぐにネタに困っていたと思います。

今回は、3月18日(水)に開催された第1回「田辺聖子文学館ジュニア文学賞」表彰式において、作家・林真理子氏に記念講演としてご講演いただいた中から、その内容の一部を紹介させていただきます。

母から私へ伝えられたこと

本日は記念すべき第1回目の表彰式開催おめでとうございます。今日は、田辺先生の後輩といまして、田舎の女の子だった私がどうやって作家になれたのかについて話したいと思います。私の母親は大正4年生まれで、今年で94歳になります。少し目が不自由になっていますが、今でも虫眼鏡を片手に本を読んだり、短歌の結社で作品を発表したりしています。母は小学生の頃に、日本の児童文学に大きな影響を与えた「赤い鳥」が募集した作文で最優秀賞をもらったことがあり、当時の新聞には「第二の樋口一葉が現れる」と紹介されたこともあります。

その母は、田舎の駅前で小さな本屋を営んでいました。結婚してすぐに兵隊に召集された父が戦争で行方不明になり、亡くなってしまったと思った母は、一人で生きていくために小さな本屋を始めたのです。実際には、父は行方不明から9年後に帰国し、母が40歳近くになった頃、私は本屋の娘として生まれました。私は勉強が大嫌いでしたが、母の影響を受けて本だけはたくさん読んでいました。中学生の頃には『風と共に去りぬ』に影響され、人生をドラマチックに生きたい、素敵な人生を送りたいと思うようになり、それは今の私の主題にもなっています。しかし現実には、当時の私は冴えない田舎の女の子でしかありませんでした。私が大学進学で東京へ出るとき、母は私に「ひとつだけ覚えておきなさい。自分が何も持っていないことを知りなさい」と言いました。母が言ったことの意味がわかったのは、大学を卒業したときです。私は就職活動で40通以上の不採用通知を受け取りました。面接へ行っても、椅子にさえ座らせてもらえないうちに帰されることもあり。それから3年半、私は生活費を稼ぐために日払いのアルバイトで過ごす毎日を送ることになります。

コピーライターから作家へ

ある時「広告文を1行書く」だけのコピーライターという仕事があることを知り、私はこれだと思いました。私は「第二の樋口一葉」と呼ばれたあの母の娘である。私に文才がない訳がない。しかもたった1行で済む仕事らしい。私は早速そのときにあった貯金をつぎ込んで、夜間のコピーライター養成学校へ通い、コピーライターとしての道を歩み出しました。しかし、なかなかうまくいかず、広告プロダクションを転々します。そんなある時、私は「糸井重里コピー塾」に参加することにしました。コピーライターとして活躍する糸井重里さんのような天才なら、きっと私の才能に気づいてくれるという何の根拠もない自信を持っていたのです。そして、何とか糸井さんに気に入られ、電話番兼、弟子のような扱いで事務所に置いていただくことになりました。そしてあるとき、糸井さんから「林君、一度コピーを書いてごらん。いいのが書けたら、ちゃんとギャラをもらって仕事をすればいいよ」と言ってもらえました。私が一生懸命に考えたコピーを書いて持っていくと、糸井さんはしばらく黙りこんで「君ってコピー下手だったんだね〜」としみじみ言うのです。そして「君には確かに面白いところがあるけれど、それはコピーの才能ではないよ。別の道を見つけないか」と言われ、私は大きなショックを受けました。

そんな時、ある人から勧められてエッセイを書いてみるようになりました。すると、初めて書いたエッセイ集『ルンルンを買ってうちに帰ろう』がベストセラーになり、一気に当時のマスコミにもはやされるようになったのです。しかしながら、その後すんなり小説家になれたかというそうではありません。当時、作家になる道は二つありました。一つは同人誌から出てくる道、もう一つは新人賞から出てくる道です。私のように、エッセイで売れてテレビにいっぱい出ている人が作家になるのは邪道扱ひされて



表彰式後のパーティーでは田辺聖子さんと談笑



いて、周囲からは直木賞なんかとれる訳がないと言われ続けました。そんなときに、田辺聖子先生は、まだ会ったこともない私をいろんなところでかばってくださいました。その時のご厚情というのは、本当に一生忘れるものではないと思っています。そして、4回目のノミネートでやっと直木賞を受賞することができたのです。

作家とは転んでもただでは起きないもの

作家というのは昔のことをよく覚えているものです。例えば、小説の中で祇園の女性を登場させることがあったときに、十何年も前に京都を訪れた時に偶然聞いた舞子さんのたった一言がヒューとよみがえってくるのです。そして、その一言が出てきた後には、その女性が言いそうなセリフが次々とわきあがってくるのです。これが、作家のメンタリティの非常に不思議なところですが、いろんな人になりきることができるのです。80代のお爺さんになったと自分に言い聞かせると、お爺さんが言いそうな言葉がすらすらとセリフになって出てくる。それができないと作家にはなれないと私は思っています。また、作家は転んでもただでは起きないものです。昔のことをネタにどれだけ小説やエッセイを書いていることでしょうか。今まで生きてきた中での苦労や挫折、そして瑣末(さまつ)な出来事の一つ一つが作品のネタになっています。もしも、私が学生のときに新人賞をとって作家になっていたら、すぐにネタに困っていたことだろうと思います。

未来の作家たちへ

今日受賞された皆さんの中から将来の作家が現れることを楽しみにしています。皆さんが「夢」を大切にお持ちになって、そして「書きたい」という気持ち・気力・体力を持っていれば、決して作家になることは「夢」ではなくなると思います。「夢」を忘れなかった人だけが「夢」を叶えることができるのです。今日、田辺聖子さんに会った感激をずっと忘れずにこれからの道を歩んでいって欲しいです。

(この文章は、林真理子氏の講演内容の一部を法人本部企画広報室がまとめたものです)

これからの予定

ライフプランニング学科 公開講座
「ブライダルプランナーというお仕事—ホスピタリティ・ビジネスの実際—」
日時：6月11日(木) 16:20~17:50
受講料：無料／お申し込み：必要

食物栄養学科 公開講座
講演Ⅰ「食物・栄養とがん予防」
講演Ⅱ「アルツハイマー病の発症メカニズムと予防」
日時：6月20日(土) 14:00~16:40
講師：[講演Ⅰ]古野 純典氏(九州大学大学院教授)
[講演Ⅱ]山田 達夫氏(福岡大学医学部教授)
受講料：無料／お申し込み：必要
共催：日本栄養改善学会近畿支部

第12回神蔭ファッションセミナー
「小さな製作現場からの発信
—ミナ ヘルホネンの“tori bag”からこれからのものづくりまで—」
日時：7月4日(土) 14:00~16:00
講師：大村 寛康氏(大阪成蹊大学芸術学部講師、ファッション小物製造業)
受講料：無料／お申し込み：必要

国文学科日本語研究センター 公開シンポジウム
「日本語のヴァリエーションをめぐって」
日時：7月25日(土) 13:30~17:00
講師：井上 優氏(国立国語研究所研究員)
陣内 正敬氏(関西学院大学教授)
西端 幸雄氏(本学 国文学科教授)
有田 節子氏(本学 国文学科教授)
受講料：無料／お申し込み：必要

上記各講座は、小阪キャンパス内にて開催いたします。
各講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、①住所②氏名(ふりがな)③電話番号④参加希望講座名を明記のうえ、お申し込みください。
〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学 学術振興課(小阪キャンパス)
TEL:06-6723-8237 FAX:06-6723-8348
E-Mail:gakujuutsu@osaka-shoin.ac.jp

平成21年度 生駒狂言鑑賞会
日時：6月13日(土) 14:00~16:00(13:30開場)
出演：茂山 千五郎師・茂山 茂師・木村 正雄師 ほか
受講料：無料／お申し込み：不要
共催：生駒市教育委員会
会場：生駒市中央公民館／お問い合わせ先：生駒市中央公民館 TEL：0743-75-0101

公開講座
「児童期における英語教育の在り方と今後」
日時：7月19日(日) 14:00~15:30
講師：菅 正隆氏(本学 児童学科教授)
受講料：無料／お申し込み：必要
※キッズルーム：有り(無料/要申込：7月14日(火)締切)

上記講座は、関屋キャンパス内にて開催いたします。
参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、①住所②氏名(ふりがな)③電話番号④参加希望講座名を明記のうえ、お申し込みください。
〒639-0298 香芝市関屋958 大阪樟蔭女子大学 学術振興課(関屋キャンパス)
TEL:0745-71-3168 FAX:0745-71-3141
E-Mail:s-gakujuutsu@osaka-shoin.ac.jp

各講座の詳細は大学ホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-shoin.ac.jp>



【あんどまみ】
大阪樟蔭女子大学 学芸学部 食物栄養学科准教授
奈良女子大学大学院 家政学研究所修士課程食物学専攻修了。
「イカ類筋肉の物性変化に対するコラーゲンの影響に関する研究」により、博士(学術)取得。
名古屋文理短期大学助手、鈴鹿医療科学大学助手を経て
山口県立大学講師、助教授。2007年4月～現在大阪樟蔭女子大学准教授。
※2010年4月、食物栄養学科は「健康栄養学科」へと名称変更します。(届出中)

「健康によく、おいしい料理」を求めて、健康調理を研究

複雑化する現代では「食と健康」の関係がますます重要になってきています。その社会で、管理栄養士・栄養士として活躍することを目指して学んでいるのが、食物栄養学科の学生たち。安藤真美先生が担当する「調理学」では、単なる調理の知識・技術だけではなく「健康によくおいしい料理」を作るための調理について学ぶことができます。また、研究室では「健康調理」をテーマとして、ゼミ生や大学院生と共に生活に密着した研究が進められています。

管理栄養士への期待は年々、高まっている

「食」は私たちの命の根源、生きていくために何より大切なことです。

しかし、便利で豊かな社会になり、ライフスタイルの多様化が進む一方で、食を大切にすることは薄れ、家族を中心とする伝統的な食文化も喪失しつつあります。そして偏食による栄養バランスの崩れや不規則な食事が原因の肥満や生活習慣病が増大し、大きな社会問題にもなっています。

こんな時代ゆえに、管理栄養士の役割はますます重要になってきています。平成12年に改正された栄養士法においても、管理栄養士は「人を対象とした保健・医療・福祉領域における高度な専門知識・技能を修得した人材」とされ、大きな期待が寄せられています。かつては栄養価計算をして、調理を指導する人というイメージで捉えられがちだった栄養士ですが、いまの管理栄養士は、保健や医療、福祉の現場チームの一員としての働きが求められており、専門知識はもちろんですが協調性やコミュニケーション能力を合わせ持った人間の豊かさも求められています。樟蔭の食物栄養学科では、このような社会の要請に応えることのできる、総合的な能力を持つ管理栄養士・栄養士を育成しています。同学科で、1～3回生を対象に私が担当しているのは調理学と調理実習です。健康によい料理について栄養とおしさの両面から指導しています。たとえば病院では、患者さんのベッドサイドまで出向いて、医師・看護師・薬剤師などと連携しながら栄養指導をする

ケースが増えています。こんなときにポイントとなるのが、患者さんに最適な食事を提供するには、どんな食材をどう調理すればよいのかということです。その基礎となるのが、調理学の知識と調理の経験なのです。

研究テーマは健康調理

今年の安藤研究室では、学部4回生が7名、大学院の1回生と2回生が各1名、それに助手と私の合計11名で研究を進めています。食品は、加熱などの調理操作を加えることで、おいしさ、成分、機能性が変化します。そこで、健康調理の観点から、調理によってこれらの要素が、どのように変化するかを明らかにすることに取り組んでいます。

その一つとして取り組んでいるのが、「食品の抗酸化能」についてです。

「抗酸化」という言葉を聞いたことがあると思います。人は呼吸によって取り込んだ酸素を使ってブドウ糖やたんぱく質を分解し、エネルギーを得ます。しかし一方でその酸素は過酸化物を発生させガンなどの病気の原因にもなるのです。そこで過酸化物質の発生を防ぐのが抗酸化物質です。食品機能学の研究により、ビタミンCやビタミンE、β-カロテン、それに醤油の褐色色素であるメラノイジンなどに抗酸化能があることがわかっており、これらの抗酸化



物質は多くの食品に含まれています。いま研究を進めているのは、毎日のように日本人が摂取している和風だしについての、「天然だしとインスタントだしの抗酸化能の比較」です。これまでの研究では、天然だしの方が抗酸化能が高いことがわかりました。現在は、だしの取り方や材料となる昆布、鰹節、いりこなどの配合割合により、どのように抗酸化能が変化するかを調べています。とは言って

もインスタントだしにも抗酸化能が無いわけではありません。毎日天然だしを取るということも大変なことです。天然だしの良さを理解しながら、時間が無いときにはインスタントだしをうまく活用することが大切でしょう。

また「調理による食品の水銀レベルの低減化」の研究にも、大学院生とともに取り組んでいます。

水銀は主に魚介類に含まれており、人は日常的に摂取していますが、通常ではまず問題ありません。実際に、学生100人から毛髪を提出してもらい水銀濃度を調べたことがありますが、最高値の学生でも危険な水準の10分の1もありませんでした。

ただし、胎児への影響を考えると妊婦は水銀を取り過ぎないように注意する必要があります。そこで、マグロなどの魚介類に含まれる水銀を調理の過程で減らす方法についての研究をはじめています。まだ研究途中ですが、酢や塩水に浸けることで、ある程度水銀量を減らせることがわかってきました。今後も研究を進め、どのような条件であればおいしさを保ちながら、最も効率的に水銀を除去できるかを調べていきたいと考えています。健康志向の高まりとともに、食と健康を取り巻く環境は流動的に変化し続けています。メタボリックシンドロームに関しても、食生活改善の視点から、管理栄養士・栄養士の果たす役割はますます重要になってきています。また食育の充実が叫ばれる今、子どもたちへの食事指導、栄養指導が大きな課題となり、平成17年からは、栄養教諭が新しく登場し



マグロなどの魚介類を酢や食塩水に浸けることで、水銀量を減らす研究を行っている。



ています。栄養教諭は小学校や中学校の給食を管理するだけでなく、子どもたちに「食」や「栄養」についての正しい知識と習慣を身につけさせるための指導を行う役割をもち、卒業生たちの活躍の場としても期待されています。

教育学部から食品の世界へ

私は静岡大学の教育学部を卒業した後、奈良女子大学大学院で食物学を専攻し、今は大学で研究と教育をしています。なぜ教育学部から食物研究の大学院に進んだかという、教育学の一環として4回生のゼミで行った食品研究に強い興味を持ったからです。もっと正確に言えば、実験をして結果を出すことがとって面白かったのです。実験好きといいましたが、調理もある意味で実験のひとつです。どれぐらいの火力で何分焼けばおいしいステーキが焼けるのか、肉じゃがのじゃがいも何グラムに対して何パーセントの醤油を加えるといいのかなど、まさに実験そのものといえます。ただし、家族においしい料理を食べてもらうには、実験としての興味よりも、おいしく食べてもらいたいという気持ちが大切だと思います。博士論文の題名は「イカ類筋肉の物性変化に対するコラーゲンの影響に関する研究」で

す。それまでの料理本には、「イカは煮過ぎると硬くなるので、ささっと調理しましょう」と書かれていました。そこで加熱によってどう変化するかについて実験を重ね、しっかり煮るとコラーゲンの変化で逆に軟らかくなることを確かめて発表しました。これまでの定説を変える研究成果を発表できたことは、研究者としてうれしいことでした。

学生にはいろいろな価値観を発見してほしい

食物栄養学科の学生たちは、多くの人が資格を取るという目標意識を持っているため、まじめで真剣です。カリキュラムはきついのですが、皆しっかりと勉強しています。しかも樟蔭の校風なのか、授業の教室でも研究室でも、真剣な中にもなごやかな空気が感じられます。この雰囲気は人間形成の上で大切なことだと思います。大学生活は学問の場であるとともに、たくさんの人と知り合い、語り合うことで、いろいろな価値観を発見する場でもあります。私たち教員も、人生の先輩として勉強以外に伝えられることをたくさんもっています。ぜひぶつかってきてください。私も学生たちの若さからパワーをもらって、学び続けていきたいと思っています。



中澤麻利子

なかざわ まりこ
トリンプ・インターナショナル・ジャパン株式会社勤務
OEM部営業二課・専任係長

大阪出身
1991年3月大阪樟蔭女子大学 国文学科卒業

樟蔭中学に入学後、藤間流の日本舞踊に熱中、そのかたわら流麗な文章に惹かれて三島由紀夫の『仮面の告白』や谷崎潤一郎の『痴人の愛』を愛読する。三島の知識の豊富さに触発され、ギリシャ神話やローマ神話なども読破する。大学卒業後、家業が下着製造だったこともあり同世代が着たくなる下着をデザインし、メーカーと契約して販売ルートに乗せる。トリンプ入社後は、OEM部に所属し、あらゆる年代の下着を開発している。年2回、仕事としてパリの展示会に行くほか、プライベートで訪れた外国は、イギリス、イタリア、ドイツ、オーストリア、スイス、ベルギー、オランダ、スペイン、チュニジア、アメリカ、中国、韓国など多数。海外ではオペラ、バレエを観て、美術館にも行く。美しさを愛する心は、仕事にも活かされている。

美は永遠の憧れ。美しさと機能性を求めた夢のある下着は、女性たちの強い支持を得る。

樟蔭のおおらかで自由な雰囲気の中で、中学から大学まで過ごし、日本舞踊をベースとして美術や文学にも親しんで育んだ美への感性が、世界的な女性下着メーカーでの商品開発に活かれています。今回はトリンプ・インターナショナル・ジャパンの中澤麻利子さんに、商品開発のこと、そして中学・高校・大学と10年間を過ごした樟蔭の思い出をお聞きました。



アラフォー世代とその下の世代では心に届くものが違う

中澤麻利子さんの会社は、トリンプ・インターナショナル・ジャパン。ドイツ発祥で現在はスイスに本社を持つ、世界最大の婦人下着メーカー、トリンプ・インターナショナルの日本人である。大阪市都島区にある大阪営業部のOEM部で、商品開発を担当している。OEM (Original Equipment Manufacturing) とは、他社のブランド名で製品を開発製造することである。「本社は東京ですが大阪にOEM部が置かれているのは、関西に大手の通信販売会社が集まっているからです。私はクライアントであるそれらの通販会社と協力しながら、ランジェリー、ブラジャー、ショーツなどの商品開発を

しています」
下着は、もともとカタログによる通信販売が盛んなうえ、近頃はインターネットによる販売も広がっている。OEM部への依頼も多くなってきた。「クライアントから依頼があって動く場合と、こちらから提案する場合がありますが、どちらもターゲットの人物像を作り上げることが大切です。近頃のカatalogはただ商品を羅列するだけでなく、なぜその商品がいいのかを伝える読み物としての傾向が強まっていて、開発段階からお客様に伝えるメッセージを明確にすることが求められます」
最近ヒットした中澤さんの開発商品は、20代後半から30代に向けてのブラジャー。「アラフォーといわれる40歳前後から50歳くらいまでの女性は、若い頃にバブル景気を経験

している世代なので、今でも高級感や前向きイメージが込められたものを求めます。一方、20代後半から30代半ばの女性は、バブル後の世代。就職難だったり給料が抑えられたりしているからか、否定的な表現のほうがりアリティを感じます。つまり「バストが美しく見えます」とか、「2カップアップします」などの言葉にはあまり反応しません」
中澤さんはこれまで否定的な表現をタブーにしてきたが、胸のかたちを補正する必要性を訴えたネガティブな呼びかけで売り出したら、驚くほどにこの世代の心にしっかりと届いた。「この商品は今も好調に売っていますが、この商品を通じて、下着だけでなくアラフォー世代との考え方の違いを改めて実感できました」商品開発のいちばんの面白さは、夢をかたちにすること。ヒット商品を作り出すことももちろん大切だが、たとえ地味な商品でも、お客様に心から喜んでもらえる商品を開発することも、また大きな喜びである。

そのひとつが、乳がんで乳房を失った女性に対応するブラジャーの開発だった。「開発に先立って3人の方にお話を聞き、同じ女性として美しいシルエットが作れない辛さがよくわかりました。そこでパッドを入れやすく、手術跡に負担がかからないブラジャーを作り、失った乳房に代用するための別売りのパッドを用意しました。もちろんたくさん売れたわけではありませんが、感謝のお手紙をたくさんいただきました。それだけでなく、『もっとこうしてほしい』という要望もいただき、必要とされているものをつくる喜びを実感しました」

美術の時間、図書館の写真集そして昼休みのパレーボール

中澤さんは中学、高校、大学国文学科と樟蔭育ち。おおらかな校風で、好きなことに打ち込める環境でのびのびと育ったことが、人間に興味を持ち、想像力と感性を発揮しなければならない現在の商品開発の仕事に、大きく役立っているという。「中学と高校時代、ずっと日本舞踊を続けて



花柄にレースやボタンを組み合わせて、イメージはフランスの庭。カラーに日本の古代色を使ったことで上品な深みが表現できました。



いました。日本舞踊独特の白塗りの化粧、あてやかな着物、そして美しい所作が好きで、熱心に稽古をしていました。その頃から、美しいものが好きで、油絵を描く美術の時間も楽しみでしたし、図書館で写真集や画集を眺めて時を忘れることもしばしばでした。とくに好きだったのはマン・レイの写真集。白黒写真なのに、まるで色が立ち上がってくるような美しさがありました。かといって閉じこもっていたわけではなく、昼休みにはクラスメイトとパレーボールをしたり、おしゃべりしたり。当時の友達とは今でも一緒に食事や旅行を楽しんでいます」
国文学科に進学したのは、三島由紀夫や谷崎潤一郎などの小説が好きだったことに加えて、日本舞踊を続けていくのに役立つ教養を得たいと思ったから。「ところが、大学入学後に足の手術を受けて踊りは断念。それでも文学だけでなく、日本の文化への興味は失われませんでした。その当時は人間の根元を知りたくて、哲学、哲学史、宗教哲学の3教科をすべて、一回も休むことなく受講しました。ゼミは北村英子先生の『平安文学』を受講し、卒業論文のテーマに沿った、自作の貝合わせ百人一首を作成しました。ハマグリを買ってきて、食べるのは家族にも協力してもらい、殻を洗って乾かして、胡粉(白い顔料)を塗ってから絵を描きました。洗ったり干したりしている間に、貝合わせの片方がわからなくなったりして、ずいぶん苦労しましたが、出来栄は上々。大学でのいちばん印象深い思い出です」

目に見えない下着にこそ美的センスが試される

卒業後、海外のファッションブランドを扱う輸入総代理店に就職したものの、営業事務よ

りも、ものづくりをしたくて退社。父親が下着製造の会社を経営していたことから、自然と下着のデザインをするようになった。「当時は下着の種類が少なく、もの足りなかったのです。そこで自分が身に着けたいと思う下着をデザインし、父の会社でサンプルを作ってもらってメーカーに持ち込みました。採用されれば数千枚作って、メーカーに納入していたのです。ある日、デパートのエスカレーター上の踊り場で、自分がデザインしたランジェリーをマネキンが身に着けているのを見つけたときには、ちょっと感激しました」
そして2001年にトリンプに入社、より多くのお客様を対象とした商品開発で活躍している。「日本舞踊をはじめた頃から、美しさと素敵なものへの憧れはずっと持っています。女性の下着は機能性も重要ですが、人には見えないものだからこそ、身に着ける人の美的センスが試されるもの。これからも素敵な下着を求める女性のために、美しく機能的な商品を開発していきます」

【後輩へのメッセージ】 学生時代に興味を持ったことはいつかきっと役に立つ

学生時代は自由な時間がある貴重な時期。アンテナを思い切り広げて、いろいろなことに興味を持ち、追求してください。そのことがいつか役に立つ日が来ます。私が国文学を通じて学んだ平安時代や狩野派、琳派など日本の美の知識は、いまでも仕事を支える柱の一つ。カラーに古代色を使うなど、今の商品開発の仕事に活かしています。仕事だけでなく、今も京都の街を歩いたり、美術館へ行くことを楽しむのは、学生時代に学び育んだ「美しいもの」への尽きぬ思いがあるからです。

卒業生の方々のご活躍の様子をお知らせください。

さまざまな分野でご活躍されている卒業生の情報をお寄せいただき、みなさまのお力をお借りして、この「こもれびの窓」で幅広い卒業生の姿をお伝えしていきたいと思います。身近でご活躍の卒業生の様子をぜひとも樟蔭学園法人本部企画広報室までお知らせくださいますよう、お願いいたします。●TEL 06-6723-8152●FAX 06-6723-8263